

# リサイクルおもちゃの製作

## —生徒と園児の心に残る交流活動を目指して—

幼稚園を訪問し幼児との交流を体験することで、幼児への関心を深めると共に、かかわり方を工夫する。その中で自分の成長を自覚し現在の自分の存在感や有用感を感じ、将来への夢を抱くことができるようにする。幼児にとってもたくましく成長した中学生と楽しく遊ぶことが心躍る経験となることを目指している。そのため生徒が自分なりの課題をもって幼児とのかかわりを深められるように「リサイクルおもちゃ」を製作し、幼稚園訪問の際、園児にプレゼントし一緒に遊ぶ体験を大切にしたい。

### 1. はじめに

本校では、第3学年で家族とのかかわりについての学習を行い、現在の自分と家族について考えていく中で、これまでの自分についても見つけていく必要があると考え、そのつながりとして、幼児とふれあう活動学習を位置づけた。また、本校は地域共同学習の推進校ということで、日頃から保幼小中での連携を大切にしている。そのため、生徒と幼稚園児の交流は、家庭分野と総合的な学習の時間を関連づけて綿密に計画し、学校全体として教育目標を実現しようとした取り組みの一貫でもある。

### 2. 実践内容

#### 1) ねらい

技術・家庭科の家庭分野の目標でもある生活の自立を図る観点から、子どもが育つ環境としての家庭や家族関係を考えることを通して、自分の成長や生活が、家族やそれにかかわる人々に支えられていることに気づくことができるようにする。また、幼児の観察や幼児とのふれあい体験をもとに、子どもと家族のかかわりや家庭や家族の基本的な機能について考え、自分の家族関係の振り返りにつなげるように展開する。さらに、体験から身に付けた知識・理解を、現在と将来の家庭生活に創意工夫しながら活かすことができる技能にまで高め、家庭生活をよりよくしようとする態度の育成を図ることをねらいとしている。

### 2) 指導計画

〈幼児の生活と家族〉

学習項目	時間
①中学生にとっての家族	1
②幼児の成長	5
③幼児との交流 ・「リサイクルおもちゃ」の製作 ・「メダル型名札」の製作 ・事前学習（幼稚園の先生による） ・幼稚園訪問 ・事後交流	10 ※
④幼児の食生活とおやつ	2

※ 総合的な学習の時間を含む

### 3) 学習活動における評価基準

#### □生活や技術への感心・意欲・態度

・「リサイクルおもちゃ」の製作を通して、幼児とのふれあいに関心をもち、幼稚園訪問における課題を見つけようとしている。 【観察・ノート】

#### □生活を工夫し創造する能力

・幼児の心身の発達に応じた遊びやおもちゃ、遊び方について考え、工夫している。 【作品・ノート】

#### □生活の技能

・対象児の発達段階を考え、対象児にふさわしい遊び道具を製作することができる。 【観察・作品】

#### □幼児にとっての遊びの意義について理解している

【観察・ノートのまとめ】

#### 4) 指導のポイント

幼児の成長と発達課題について学習し、その後の幼稚園訪問をより意味のある交流学习とするために、幼児と積極的にかかわることができる教材として、これまでの学習のまとめ及び発展ともなるおもちゃづくりを教材として取り扱った。

幼稚園を訪問し幼児と交流するにあたり、幼児についての座学での学習に加えて、訪問する幼稚園の園児のことを想像したり、交流するときのことを考えたりしながら家庭の不要品を再利用して、創意工夫しながら安全で丈夫なおもちゃを作ることにした。県版の「技術・家庭総合ノート」を活用し、図書館で文献を参考にしながらおもちゃの構想を練った後に製作に取りかかった。

#### 〈生徒のノート〉



#### 〈幼稚園訪問後の感想〉

- ・私は、工作などが苦手なので、最初は、自分が作ったおもちゃに自信がなかったが、ペアになった園児は、私のおもちゃをすごく喜んでくれてずっと遊んでいた。
- ・幼児は、とてもかわいくて、すぐひざの上に乗ってきたり、「だっこして」とか言ってくれたりした。途中おもちゃを取り合ってけんかになりそうぐらい夢中になって遊んでくれてうれしかった。
- ・小さい子と楽しく遊ぶ自信はなかったが、今回の交流体験で幼児と遊ぶことが少し好きになれた気がする。

#### 3. まとめ

幼稚園訪問では、女子生徒は比較的早く幼児に打ち解け、自分一人でも積極的にかかわりを求めて行動することができていた。一方の男子生徒は、最初、幼児とのふれあいがスムーズに進まない面も見られた。そんな中で幼児の興味を引く「メダル型名札」や「リサイクルおもちゃ」は、幼児が楽しく遊べるきっかけとなり、遊びを通して幼児への理解も深まった。また、遊びの種類や遊び方なども子どもによってそれぞれ違うことにも気づくことができた。

中学生にとって現在の自分の成長を実感し存在感や有用感を感じ、将来への夢を抱くことのできる幼稚園訪問でのふれあい体験学習を今後も大切にし、幼児にとっての遊びの意義についても理解を深めていくことができるようにしたい。